

評議委員会より

評議会全般では

過去の行事を変えることへの拘りとその真の意義に春名神父様より提起があった。

●復活祭の卵…ロシア正教会で皇帝が装飾品卵を配ったことが起源でカトリックでも庭の卵を子供達が探す習慣ができたが、本来カトリックの信仰とは無関係。当教会でも土曜日は卵の準備が大変であった。土曜日は主の十字架上の死を黙想する時間とすべきとの理由でやめた。

●ミサ中の祝福…ミサ中初聖体 時に、従来のような初聖体者への祝福がなかった。ミサ中に個別に祝福するより最後に初聖体者も含め信徒全員に祝福を与えるのが良い、との趣旨である。むしろ初聖体者にはパンとぶどう酒を祭壇に持って行かせ、ご聖体の大切さを教えることが重要。

●一方、イングリッシュチームより国際ミサの雰囲気改善の要望あり。信徒さんには思うことを遠慮なく言って貰い、これをポジティブに捕えて教会をより良くしていきましょう。

◆訪問チームでは、

現在、16名(12ヶ所)を3~4ヶ月に1回の割合で、神父様と共に訪問しています。皆さん明るく前向きで、神様をより近くに感じて居られるお姿やお言葉に、いつも学ばせて頂いています。

「信者で良かった！」と言われ、お礼の電話やお手紙を頂き恐縮しながらも、励みにさせて頂いています。

◆財務チームでは、

どのチームもメンバーが少なく運営が難しい状況です。教会が少しずつ国際化に向けて歩めることを願っています。

◆教会学校では、

先日初聖体を迎えた子どもたちの、侍者の練習が始まります。

奉仕の意味を考え、喜びを持って務めることができればいいなと思います。

◆宮繕チームでは

昨年度(二〇一七年度)は、神父さんの寝室や執務室を整備し、快適な住環境を提供したほか、本館エアコンの不良部品交換、排水ポンプの取り換え、ザビエル館ステージの補修等のこまごまとした補修をした。「新館」と呼んでいる建物も私が高校生だった時に竣工した建物。初老になって、いたるところにガタが来ている。ひっきりなしに修繕や取替工

事が必要になってくる。今年度はおじいさんのザビエル館の耐震調査をまず行う。

最近地下の活動が活発になって来て、思わぬところで大地震が発生している。「播磨の下は石」だから大丈夫と言って
いられない。小教区の建物に、早急に耐震性を持たせたい。

また、教会行事の時に持ち寄りで行うことは、みんなで協力出来るので良かったと思います。この一年があっという間に過ぎましたが、共同体の良さを感じ、神様の国を知らない人達の為に私達の信仰を伝えて行く大切さを改めて思いました。

(評議委員会)